

北広島市観光基本計画 報告書

令和4年3月
北広島市

目 次

1	観光基本画の総括	2
	(1) 観光基本計画について	
	(2) 報告書の作成	
	(3) 観光基本計画の総括	
2	基本方針・基本施策	4
3	観光基本計画の成果と課題	5
	基本方針1 市民力を活かした観光推進力づくり	5
	基本方針2 観光資源の保全と有効活用	10
	基本方針3 魅力ある観光基盤の構築	15
	基本方針4 効果的な情報発信	17

1 観光基本計画の総括

(1) 観光基本計画について

現計画である北広島市観光基本計画（改訂版）は、「きたひろしま総合運動公園予定地」が北海道日本ハムファイターズの新球場の建設地として決定したことを受け、新たにボールパーク開業に向けた観光まちづくりの推進を重点プロジェクトに位置付けるため、平成 31 年 3 月に改訂しました。

また、改訂に併せて、計画期間（前計画：平成 26 年 4 月から令和 3 年 3 月までの 7 年間）を 2 年間延長し、令和 5 年 3 月までに変更しています。

観光基本計画は、上位計画である北広島市総合計画の重点プロジェクトや観光振興に関する政策を推進するものであり、計画では 4 つの基本方針と 11 の基本施策を定め取組を進めています。

めざす姿	にぎわいと魅力あるまち 北広島
------	-----------------

基本方針	1 市民力を活かした観光推進力づくり
	2 観光資源の保全と有効活用
	3 魅力ある観光基盤の構築
	4 効果的な情報発信

(2) 報告書の作成

観光基本計画には、4 つの基本方針に紐づく 11 の基本施策を設定し、各基本施策に基づく具体的な取組として 25 の事業を掲げています。

令和 4 年度に次期観光基本計画の策定に着手することから、これまでの実施状況や効果、今後の課題等を取りまとめ、本内容を踏まえながら次期計画の検討を進めていきます。

(3) 観光基本計画の総括

本市では長く観光振興に特化した個別計画を有しておらず、総合計画に基づき、観光の振興やイベントの充実など幅広い観光政策の推進を図るとともに、商工業振興基本計画に基づく観光資源の発掘や観光商品の開発、観光情報の発信、広域・民間連携など、両計画を踏まえ、各種取組を推進してきました。

観光基本計画の策定は、第 5 次総合計画において、「観光の振興」を具現化する取組の一つに「新たに策定する観光基本計画に基づき観光の振興を図る」ことが位置付けられ、推進計画にも新規事業として搭載し、こうした経過を経て、平成 26 年 4 月に観光振興の基本的な考え方と方向を示すとともに、観光協会の活性化と観光を通じた豊かなまちづくりを目指すことを目的に観光基本計画を策定しました。

令和2年度までの取組では、任意団体であった観光協会の法人化や関係機関との連携・ネットワークの構築に向けた都市型観光推進協議会の設置、グリーンツーリズムとの連携、サイクルツーリズムの展開、近隣自治体との連携等を進めることで、組織体制や情報発信の強化、観光資源の有効活用、魅力ある観光基盤の構築等の推進を図りました。

これらの取組により、観光基本計画に掲げた内容は概ね達成できたといえますが、基本施策ごとに課題も残されていることから、次期計画においても継続して検討する必要がある取組も含まれているといえます。

令和5年3月には、北海道日本ハムファイターズの新球場を核とした北海道ボールパークFビレッジが開業し、道内外から多くの観光客が本市を訪れることが想定されます。ボールパークは本市の新たな観光資源となり、地域ブランドとしての価値や魅力の向上、更には観光振興の推進力として大きく寄与することが期待されます。

なお、現在、世界的な規模で感染が広がる新型コロナウイルス感染症については、観光産業に多大なる影響を与えることから、その動向には留意する必要があります。

次期観光計画策定に向けて、報告書の結果を踏まえ、引き続き課題の整理や基本施策の検討を進めていきます。

2 基本方針・基本施策

2-1 基本方針・基本施策

基本方針	1.市民力を活かした観光推進力づくり	
	1-1.推進体制の確立と支援	1-1-1.観光協会の活性化 1-1-2.都市型観光推進体制の整備
	1-2.市民による観光の推進	1-2-1.ガイド及びインストラクターとの連携 1-2-2.人を迎える意識の醸成
	1-3.事業者と連携した観光の推進	1-3-1.体験型観光の展開 1-3-2.市内事業者等との連携による観光事業の企画と展開 1-3-3.滞在型の観光事業の企画と展開
	1-4.近隣自治体等との協力・連携	1-4-1.近隣自治体等との協力・連携 1-4-2.産学官連携による魅力づくり
基本方針	2.観光資源の保全と有効活用	
	2-1.観光資源の発掘とブラッシュアップ	2-1-1.観光資源の掘り起こし 2-1-2.観光資源のブラッシュアップ 2-1-3.土産物や食資産オリジナルグッズのPR
	2-2.観光メニュー・ルートの創出	2-2-1.観光メニュー・まち巡り観光ルートの創出
	2-3.観光資源となりうる各種取組との連携	2-3-1.エコミュージアム構想との連携 2-3-2.グリーンツーリズムとの連携 2-3-3.スポーツ交流やイベントとの連携
基本方針	3.魅力ある観光基盤の構築	
	3-1.観光施設及び周辺環境整備	3-1-1.案内表示板等の計画的な整備 3-1-2.観光案内所やアンテナショップの検討
	3-2.交通体系の整備	3-2-1.交通体系の充実 3-2-2.サイクリングネットの充実 3-2-3.市道の整備
基本方針	4.効果的な情報発信	
	4-1.より効果的なPR	4-1-1.メディアの活用 4-1-2.観光ホームページの充実
	4-2.観光パンフレット等の充実	4-2-1.観光パンフレットの充実 4-2-2.外国人向け観光ガイドマップの充実

3 観光基本計画の成果と課題

基本方針 1 市民力を活かした観光推進力づくり

1-1. 推進体制の確立と支援

事業名	1-1-1. 観光協会の活性化
概要	観光協会の観光振興に果たす役割を強化し、主催事業の見直しなどを含め、活性化を図ります。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月に観光協会の組織強化に向けて「北広島市観光協会のあり方について考える検討委員会」を設置。観光協会より検討委員会に観光協会のあり方について諮問、同年9月、検討委員会より法人格の取得や自己財源の確保等について答申。答申を踏まえ、観光協会において法人化に向けた検討が行われる。 令和3年6月に「一般社団法人北海道きたひろ観光協会」が設立、任意団体から法人化へ、自主自立的な事業運営を開始。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会は自主自立的な事業を展開し、観光事業者や商工会、近隣自治体、行政など多様な関係者との更なる連携強化を図るとともに、ボールパークと観光事業者を繋げる中間的な役割が求められる。 観光協会の活性化に向け、組織や人材、財政など運営基盤の強化に向けた検討と取組が求められる。

事業名	1-1-2. 都市型観光推進体制の整備
概要	観光推進の基盤となる、関係機関や団体等による有機的な連携とネットワークの構築をめざし、行政も含め推進体制を整備します。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための組織として、商工会や観光協会、宿泊、ゴルフ場、店舗、市民、学識等で構成する「きたひろしま都市型観光推進協議会」を設置。 協議会の議論を通じて、都市型観光の方向性を4つの柱からまとめたほか、毎年度、観光振興の取組に関して、様々な立場からの幅広い意見交換を実施。 都市型観光の方向性を踏まえ、ゴルフツーリズムやサイクルツーリズムを推進することにより、ツアー造成やまちの観光イメージづくりの醸成を図る。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月のボールパーク開業により、北広島市が大きく変貌する機会を好機に、引き続き関係者が連携する協議会を有機的に活性化させていく必要がある。

1-2. 市民による観光の推進

事業名	1-2-1. ガイド及びインストラクターとの連携
概要	本市を訪れる観光客のみならず、市民に対しても観光資源の案内や様々な魅力を発信することができるガイドやインストラクター等との連携を図ります。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・エルフィンロード等の観光資源を活用し実施したサイクリングツアー（ツール・ド・キタヒロ）では、走行ガイドとして大学生等の自転車愛好家の協力を得て事業を運営。 ・北広島市の自然や歴史、産業の魅力を発信するため、市内の団体と連携した取組を実施。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業の実施にあたっては、まちづくりの様々な分野で活動する団体等との連携を深めるほか、市民の観光まちづくりへの参画を促すため、ボランティアやガイドなど観光分野で活躍する人材育成に向けた取組を検討していく必要がある。

事業名	1-2-2. 人を迎える意識の醸成
概要	市民や企業、行政がそれぞれ観光の振興を進めるために、本市の魅力を再発見・再認識することで、郷土愛を醸成し「おもてなし」の心をもって、本市を訪れる観光客に接することができるよう市民への情報の提供に努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会と連携し、観光事業者（宿泊、交通、飲食等）のほか、広く市民を対象に、外国人に対する心構えや異文化の理解、多言語ツールの活用、ホスピタリティの向上など、インバウンド対応能力の向上を目指した研修を実施。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドへの対応やホスピタリティの向上は、研修会等を通じた継続的な学びの提供とともに、事業者等における学びの実践と実践に向けた支援など、研修会をより効果的な内容とするため、トータルで支援できる仕組みを検討する必要がある。 ・観光客を受け入れるホスピタリティの醸成には、市民がまちを知り、愛着を持つことが重要な要素となるので、各種団体や大学等との連携も視野に、市民が歴史遺産や観光資源に触れ、まちを知る機会を創設していく必要がある。

1-3. 事業者と連携した観光の推進

事業名	1-3-1. 体験型観光の展開
概要	参加者体験型観光に対するニーズが高まっていることから、様々なアクティビティ等の新たなメニューを企画・立案していきます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・エルフィンロード等の地域資源を活用し、自転車を核としたコンテンツづくりを進め、平成 25 年度より、サイクリングツアー（ツール・ド・キタヒロ）を開催。 ・市内には、レンタサイクルやキャンプ、スキー、スノーモービル、農業体験など、様々な体験型のアクティビティがあり、それらの観光資源を観光客に訴求させるため、モニターツアーやファムトリップ*の見学先として選定しているほか、観光情報サイトで紹介。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングツアー（ツール・ド・キタヒロ）では、市外からの参加者が多く、交流人口の拡大に寄与する取組となる一方で、市民への波及が弱く、自転車を楽しむまちづくりの基礎となる、市民利用の促進や自転車を楽しむ仕掛けなど、市民へのアプローチに課題が残る。 ・本市が有する体験型コンテンツを更に活かすための磨き上げや情報発信の工夫等に継続して取り組むとともに、ターゲットとする国や地域のニーズやトレンドを踏まえた体験型メニューの検討など戦略的な展開が必要となる。

*ファムトリップ：誘客促進に向けて旅行会社等の観光関連事業者に観光コンテンツを体験してもらい、自国でのプロモーションにつなげていく手法。

事業名	1-3-2. 市内の事業者等との連携による観光事業の企画と展開
概要	市内で周遊できる観光事業の実施に向けて、商業施設等の事業者と行政が連携します。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドの受入に向けたモニターツアーやファムトリップを市単独、又は圏域の連携事業として実施。市内の農園や商業施設、食を楽しめる観光スポットの提案など、観光資源を活かした旅程を造成するため、事業者と連携した取組を推進。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールパーク開業により、道内外から多くの観光客が本市を訪れることが想定されることから、集客性の高い観光資源となるボールパークへの来訪者をいかに市内各所に周遊させるのか、観光振興に求められる新たな課題となる。 ・観光協会との連携を一つの基軸として、観光事業者との連携を深めながら、来訪者の周遊性の向上や滞在時間の拡大に向けた取組を進めるとともに、観光の稼ぐ力の強化が求められる。

事業名	1-3-3. 滞在型の観光事業の企画と展開
概要	本市の魅力を活かし、家族単位や小グループで楽しむことのできる滞在型観光プログラムについて検討します。
取組・成果	・インバウンドの受入に向けたモニターツアーやファムトリップを市単独、又は圏域の連携事業として実施しているものの、北海道胆振東部地震や新型コロナウイルス感染症の影響により、送客実績に繋がらなかった。
課題・今後	・ボールパーク開業により、道内外から多くの観光客が本市を訪れることが想定されることから、集客性の高い観光資源となるボールパークへの来訪者をいかに市内各所に周遊させるのか、観光振興に求められる新たな課題となる。(再掲) ・観光協会との連携を一つの基軸として、観光事業者との連携を深めながら、来訪者の周遊性の向上や滞在時間の拡大に向けた取組を進めるとともに、ウイズコロナ、アフターコロナにおけるツアー造成の再構築が必要となる。

1-4. 近隣自治体等との協力・連携

事業名	1-4-1. 近隣自治体等との協力・連携
概要	近隣自治体の魅力ある観光地と、本市の観光資源を結びつけ幅広い観光客の誘客の相乗効果を図るため、自治体や関連機関、団体との連携を検討していきます。
取組・成果	・道外や国外へのプロモーションは、国や北海道、近隣自治体等との協力・連携が効果的であり、複数の連携の枠組みを構築し、特に東南アジアや東アジアからの誘客促進を図る。 ・主な連携は、北海道へのゴルフ観光客の誘致を進める「北海道ゴルフツーリズムコンベンション協議会」、圏域における観光客の増加を目指す「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」、外国人旅行者の誘客促進に向けた「広域観光周遊促進事業」がある。「北海道ゴルフツーリズムコンベンション協議会」では平成30年度は北広島市が開催地となる。
課題・今後	・国外からの誘客促進にあたっては、市単独で取り組むのではなく、圏域全体で取り組むことでスケールメリットが期待できる。引き続き、近隣自治体と連携した取組を推進する必要がある。 ・集客性の高い観光コンテンツとなるボールパークについて、北海道のランドマークとなるその価値と機会をいかに近隣にも波及させるのか、観光振興に求められる新たな課題となる。

事業名	1-4-2. 産学官連携による魅力づくり
概要	産学官それぞれの強みを活かし、有機的な連携や協力により新たな魅力アップに努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「きたひろ都市型観光推進協議会」において、観光基本計画を踏まえた都市型観光の推進や観光施策に対する意見交換など、観光基本計画の具現化に向けた連携を推進。 ・観光学部を有する大学との連携により、学生視点での観光資源の掘り起こしやターゲット層を踏まえた効果的な情報発信、観光商品の造成等の調査・研究を行う。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会を核とした意見交換を引き続き進めるとともに、観光の魅力向上に向けて若い世代の発想や感覚を取り入れるため、大学生や高校生等との新たな連携も推進する必要がある。また、その連携は行政に留まることなく、観光協会をはじめ観光事業者等との関係性が深まることで産学官連携の枠組みが構築される。

基本方針 2 観光資源の保全と有効活用

2-1. 観光資源の発掘とブラッシュアップ

事業名	2-1-1. 観光資源の掘り起こし
概要	市民の視点では観光資源となり得ないものであっても、観光客の視点では魅力的な観光資源となりうる可能性があります。こういった新たな観光資源の掘り起こしを行い、観光事業への活用を進めていきます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none">・近隣自治体との連携事業において、外国人を招聘したモニターツアーやファムトリップを実施。外国人視点での評価を行うことで、観光資源に関する魅力や課題の把握・掘り起こしにつながる。・観光学部を有する大学との連携により、学生視点での観光資源の掘り起こしやターゲット層を踏まえた効果的な情報発信、観光商品の造成等の調査・研究を行う。(再掲)
課題・今後	<ul style="list-style-type: none">・観光資源の商品化や高度化を進めるためには、ターゲットとする国・地域の動向を分析することで効果的なプロモーションにつながる。モニターツアーやファムトリップの実施により得られた成果を観光資源の発掘や磨き上げにつなげていく必要がある。・観光資源の一つ一つに背景や歴史があり、それら資源を結びつけることで魅力的かつ物語性を持った観光ルートの造成が期待できる。近年は体験型観光のニーズが高く、観光トレンドを意識した商品造成が求められる。

事業名	2-1-2. 観光資源のブラッシュアップ
概要	既に観光資源として活用されているものをブラッシュアップすることにより更に魅力のある観光資源として発信していきます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体との連携事業において、外国人を招聘したモニターツアーやファムトリップを実施。外国人視点での評価を行うことで、観光資源に関する魅力や課題の把握・掘り起こしにつながる。(再掲) ・観光学部を有する大学との連携により、学生視点での観光資源の掘り起こしやターゲット層を踏まえた効果的な情報発信、観光商品の造成等の調査・研究を行う。(再掲)
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の商品化や高度化を進めるためには、ターゲットとする国・地域の動向を分析することで効果的なプロモーションにつながる。モニターツアーやファムトリップは、得られた成果を観光資源の発掘や磨き上げにつなげていく必要がある。(再掲) ・観光資源の一つ一つに背景や歴史があり、それら資源を結びつけることで魅力的かつ物語性を持った観光ルートの造成が期待できる。近年は体験型観光のニーズが高く、観光トレンドを意識した商品造成が求められる。(再掲)

事業名	2-1-3. 土産物や食資産オリジナルグッズ等のPR
概要	本市の土産物や食資産を積極的にPRするとともに、キャラクター等を使用したオリジナルグッズ等を活用し、知名度アップを図ります。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市外で行われる各種イベントに参加し、地元産を使った食資産のPRを実施。商工会や市内事業者では、赤毛米を活用した商品開発も展開。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・市外で行われる集客性の高いイベント等に参加し、市の魅力や情報を発信することは、市の知名度向上や特産品等のPR効果が期待され、更には将来的な来訪にもつながる可能性もあり、引き続き、様々な機会を捉えまちの情報を発信する必要がある。 ・市の特産品を使った商品開発や販売を、市内の事業者や店舗など広範な枠組みで取り組むことにより、新たな食のPRやまちの魅力につながる可能性もあり検討する価値はある。

2-2. 観光メニュー・ルートの創出

事業名	2-2-1. 観光メニュー・まち巡り観光ルートの創出
概要	<p>多様化・高度化する観光客のニーズに対応するため、既存の観光資源同士や掘り起こされた新たな観光資源を有機的に結び付け、新たな観光メニューを提供するとともに、テーマやストーリー性を持たせた「まち巡り観光モデルルート」の創出に努めます。</p>
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドを含めた旅行者を呼び込み、交流人口の増加等を目指した農泊の取組を推進するため、農園や宿泊施設、商工会、観光協会等が連携して「北広島市農泊交流協議会」を設置。体験と宿泊をセットにした旅行商品のモニターツアーを実施。 ・地域資源であるエルフィンロード等を活用した取組として、観光スポットや食を楽しむサイクリングツアー（ツール・ド・キタヒロ）を実施。参加者の多くは市外在住者であり、自転車を軸に観光資源や食に触れる内容として交流人口の増加や地域の魅力発信の機会となる。 ・観光情報サイトにおいて、まち巡りのモデルコースやサイクリングルート等を紹介。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発信・活用にあたっては、当該資源が有する価値を正確に伝えるとともに、より観光客に訴求する観光資源に磨き上げが必要となる。物語性を持った魅力の創出や体験型の観光コンテンツの造成等に向けて検討する必要がある。 ・インバウンド等を対象としたモニターツアーやファムトリップの成果を参考に、観光資源の磨き上げや、受け入れ環境の整備・改善等を検討する必要がある。

2-3. 観光資源となりうる各種取組との連携

事業名	2-3-1. エコミュージアム構想との連携
概要	エコミュージアム構想と連携し観光資源になりうる歴史や文化、地域資産の魅力発信に努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本市が有する自然や風土、伝統、歴史、そしてこの地に培われてきた特有の文化の一つ一つが、市民が誇るまちの遺産であり、観光客にも魅力として発信できる。観光パンフレットや観光情報サイト等を中心とした情報発信のほか、歴史資産である旧島松駅通所は、外国語でのPR動画も公開。 ・「ピクニックライド・さっぽろ」によるガイド付き都市型サイクリングツアーとして、「北広島市ツアー緑の回廊エルフィンロードと北広島マンモスを楽しむコース」が造成された。
課題・今後	・観光パンフレットや観光情報サイト等のホームページを活用した情報発信に引き続き取り組むほか、市の歴史や自然に精通する団体との有機的な連携など、市民力を生かした人的なネットワークの構築を図る必要がある。

事業名	2-3-2. グリーンツーリズムとの連携
概要	農業への理解促進や地域活性化、地域産業の振興、食育への関心向上等を通じて、観光客が地域の資産や魅力に触れることができるようグリーンツーリズムとの連携に努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には、農家レストランや農産物直売所、農産物加工販売所、農業体験施設など、多様なグリーンツーリズムの観光資源があり、そうした資源を観光客に体験・体感してもらうため、各種パンフレットや映像による情報発信のほか、外国人を招聘したモニターツアー等を推進。 ・市内にインバウンドを含めた旅行者を呼び込み、交流人口の増加等を目指した農泊の取組を推進するため、農園、宿泊施設、商工会、観光協会等が連携して「北広島市農泊交流協議会」を設置。体験と宿泊をセットにした旅行商品のモニターツアーを実施。(再掲)
課題・今後	・市内には、集客性の高い観光施設があるものの、単一型の観光に留まり、市全域に波及しておらず、観光の抱える課題の一つとなる。近年、グリーンツーリズムの構想に位置付けた施設も増えており、貴重な観光資源として活用・PR していくことが求められる。

事業名	2-3-3. スポーツ交流やイベントとの連携
概要	本市を開催地としたスポーツイベントやコンベンション等と連携し、参加者を通して本市の知名度アップ、魅力の発信に努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道のゴルフ場を観光資源として海外からのゴルフ観光を誘客することを目的とした「北海道ゴルフツーリズムコンベンション協議会」に参画。平成30年度は北広島市がホスト自治体として、東アジアや東南アジア、オーストラリアから旅行会社等を招へいし北海道のゴルフブランドをPR。 ・東京ディズニーリゾートプロモーションツアー「ディズニーの仲間たちと踊るキッズイベント」の誘致に向けて、主催者への積極的なアプローチにより開催地に決定。平成27年6月に総合体育館横イベント広場で開催。市内外から多くの方が来られ、まちのPRや賑わいの創出に寄与。 ・北海道で毎年開催される自転車ロードレース大会「ツール・ド・北海道（公益財団法人ツール・ド・北海道協会主催）」の2020年開催地に決定。（新型コロナウイルス感染症の影響により中止、2021年中止） ・令和元年に開催されたJRヘルシーウォーキングでは、北の酒まつりと同日に設定されたことから、交流の促進や滞在時間の増加等に繋がった。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> ・集客性の高い各種イベントは、実際にまちの魅力に触れ、地域の人との交流が促進される機会となるほか、市外に向けてまちのPRにつながることから、引き続き、イベント等の誘致を進め、まちの魅力や情報発信の機会として活用する。

基本方針 3 魅力ある観光基盤の構築

3-1. 観光施設及び周辺環境整備

事業名	3-1-1. 観光表示板等の計画的な整備
概要	エコミュージアム構想と連動した史跡や観光地等への案内表示等の環境整備を行い、市民や観光客がまち巡りやサイクリング等を気軽に楽しめるよう利便性の向上に努めます。
取組・成果	・ボールパーク開業により交通結節点となる JR 北広島駅には、市外から多くの来訪が想定されることから、外国人を含む観光客に分かりやすく利便性の高い案内表示等を整備するための検討を進める。
課題・今後	・駅周辺への案内表示については、駅西口周辺エリア活性化事業の進捗や財源確保の観点も踏まえながら、整備に向けた具体的な計画を取りまとめる必要がある。 ・台湾の旅行関係者やメディアを招聘したモニターツアー等において、サイクリングにおける案内表示の不足が指摘されており、安全性や快適性の向上に向けた検討を進める必要がある。

事業名	3-1-2. 観光案内所やアンテナショップの検討
概要	観光客や市民の利便性向上をめざし、効果的・効率的な情報発信や物品販売等の拠点としての観光案内所やアンテナショップの設置について検討します。
取組・成果	・令和元年度・2年度の2ヵ年度において、観光サービスに対する観光客のニーズ把握のため、観光協会と連携し、JR 北広島駅東口に臨時観光案内所を設置し、観光案内や手荷物の預かり、電動自転車レンタル（R2）、地場製品の展示・販売取次、観光版プレミアムチケット等の販売（R2）等を実施。
課題・今後	・ボールパーク開業により道内外から多くの観光客が本市を訪れることが想定され、観光客を受け入れる観光案内所の整備は喫緊の課題であることから整備に向けた方向性を早期に示す必要がある。

3-2. 交通体系の整備

事業名	3-2-1. 交通体系の充実
概要	観光客や市民が、交通結節点から各方面へ移動できる市内アクセスの利便性を高めます。
取組・成果	・令和元年10月に民間事業者が運行する北広島団地線が「さんぼまち・東部線」として再編。本路線は、利用実態に合わせた時間帯別の運行体系であり、新たに公共施設や商業施設をルートに追加、日中時間帯を中心に循環路線を導入。
課題・今後	・ボールパークと JR 北広島駅、また各地区とを結ぶアクセスの強化が求められる。 ・民間事業者が運行する「北広島・三井アウトレットパーク線」が令和元年11月で終了、外国人の訪問先としてニーズの高い商業施設への移動の利便性が低下、JR 北広島駅からの二次交通の充実が求められる。

事業名	3-2-2. サイクリングネットの充実
概要	観光客や市民が自然を体感しながら市内アクセスの利便性を高めるため、エルフィンロードの延伸を促進します。
取組・成果	・市より北海道に早期整備要請を行う。
課題・今後	・引き続き、北海道に対して整備要請を行う。

事業名	3-2-3. 市道の整備
概要	市内幹線道路、生活道路を整備するとともに、市道の適切な維持管理、計画的な補修を進めます。
取組・成果	・国の交付金を活用し計画的な道路整備を推進。市民にとって身近な生活道路を整備することで、安全で快適な道路環境を実現。
課題・今後	・引き続き、国の交付金等の財源を活用し、計画的に道路整備を進める。

基本方針 4 効果的な情報発信

4-1. より効果的な PR

事業名	4-1-1. メディアの活用
概要	新聞・ラジオ・テレビ・情報誌等のメディアを活用して効果的な情報発信に努めます。
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> 市の PR や各種イベント等について、テレビや新聞等のメディアを活用した情報発信を実施。また、テレビでは、北広島市がロケ地として採用された番組もあり、メディアへの露出によりまちの PR・宣伝効果が得られた。
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> メディアが多様化する中においても、テレビや新聞は大きな影響力があり、報道された内容が SNS を通じてさらに広く波及する効果も期待できるので、積極的な活用が求められる。 近年は、特に若い世代において SNS (Twitter や Facebook、Instagram) が情報原となり、またコミュニケーションツールとなっていることから、SNS を効果的に活用することが必要となる。

事業名	4-1-2. 観光ホームページの充実																				
概要	本市の観光情報サイト「きたひろ農学校」を有効に活用するため、観光協会、市、企業、市民等が連携し、リアルタイムな情報を発信する等サイトの充実を図ります。																				
取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報サイト「きたひろ農学校」は、シティセールスの一環として、「観光」に特化した Web サイトとして平成 24 年度に公開。 ＜閲覧状況データ＞ <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>セッション</th> <th>ユーザー</th> <th>ページビュー数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>14,261</td> <td>11,203</td> <td>45,009</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>27,301</td> <td>18,946</td> <td>67,581</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>22,400</td> <td>18,444</td> <td>50,318</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>21,361</td> <td>17,196</td> <td>43,253</td> </tr> </tbody> </table>		セッション	ユーザー	ページビュー数	H29	14,261	11,203	45,009	H30	27,301	18,946	67,581	R1	22,400	18,444	50,318	R2	21,361	17,196	43,253
	セッション	ユーザー	ページビュー数																		
H29	14,261	11,203	45,009																		
H30	27,301	18,946	67,581																		
R1	22,400	18,444	50,318																		
R2	21,361	17,196	43,253																		
課題・今後	<ul style="list-style-type: none"> アクセス解析ツールを活用したユーザー層やコンテンツ閲覧状況等の分析など、サイト流入数の増加に向け解析データに基づく WEB サイトやコンテンツの改善、マーケティング施策の検討を進める必要がある。 若い世代は、SNS (Twitter や Facebook、Instagram) により各種情報や最新トレンドの把握を行っている実態があることから、SNS を活用した情報発信を検討・充実していく必要がある。 																				

4-2. 観光パンフレット等の作成

事業名	4-2-1. 観光パンフレットの充実
概要	本市の観光地としての魅力を老若男女にわかりやすく、的確に伝えることができるようパンフレット内容の充実を図り、本市のイメージアップに繋がります。
取組・成果	・本市の概要や歴史、宿泊、食事、イベント、アクティビティ、案内図等の情報をまとめた観光パンフレットのほか、サイクルツーリズムの推進に向けたコンセプトブックやサイクリングマップを作成。
課題・今後	<p>・観光パンフレットは、市の情報が広く網羅されており、汎用性の高い内容である一方、特徴や対象の分かりにくさなど、汎用性の高さが反対に作用している面もあり、パンフレットの役割を幅広い観光客を対象とするのか、特定の層に訴求する内容とするのか、目的や狙いを明確化させていくことも必要となる。</p> <p>・旅行者目線での「使いやすさ」と「情報」を追求し、二次元バーコードによる外部リンクにより、観光スポットや飲食店の情報など多種多様な観光資源を伝えられる工夫・改善が必要となる。</p>

事業名	4-2-2. 外国人向け観光ガイドマップの充実
概要	アジアをはじめとした外国人観光客の増加に対応したパンフレットの作成とそれを活用した情報発信に努めます。
取組・成果	・本市の概要や歴史、宿泊、食事、イベント、アクティビティ、案内図等の情報をまとめた観光パンフレット（英語、簡体字、繁体字、韓国語）のほか、サイクルツーリズムの推進に向けたサイクリングマップを多言語（英語、簡体字、繁体字、ハングル語）で作成し、イベント配布や観光施設に配架。
課題・今後	<p>・インバウンドの動向や圏域で実施するプロモーションを踏まえ、ターゲットとなる国・地域を明確にした上で、引き続き、効果や必要性を見極めた上で多言語版パンフレットを作成する必要がある。</p> <p>・観光パンフレットは、日本語で作成したパンフレットをベースに作成しており、市の概要を広く伝える意味では効果的といえるが、外国人観光客が必要としている情報なのか、安全や交通情報に関する情報の扱いなど、外国人の目線での必要な情報の精査が必要となる。</p>